

廃校で酒造り、語り合う企画

「学校蔵の特別授業」本に



学校蔵の特別授業
尾畑留美子

佐渡・尾畑酒造 尾畑留美子さんが出版

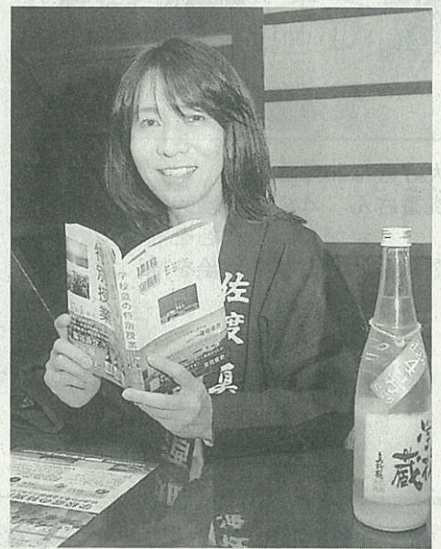
酒造会社「尾畑酒造」(佐渡市)の社長平島健さん(51)、専務尾畑留美子さん(50)夫婦が立ち上げた「学校蔵プロジェクト」。留美子さんがプロジェクトを紹介する「学校蔵の特別授業 佐渡から考える島国ニッポンの未来」(日経B P社)を出版した。地方の将来をどうみるか、完成度の高い読み物になっている。

地方の将来を考える

プロジェクトは、廃校になった旧小学校校舎を利用して整備した酒蔵で、尾畑酒造が実施している企画だ。ここで酒を造り、希望者に酒造り体験をさせている。古い教室を利用した特別授業を開き、講師役とともに佐渡島内外からの参加者が佐渡や地方の将来を語り合う。

OP代表取締役CEOの酒井穰、東大社会科学研究所教授の玄田有史の3氏にインタビューし、対談形式でまとめた。佐渡の将来、地方の将来、都市の将来をどう生きていくかがテーマになっている。

地方問題を専門に研究と提言を続けている藻谷氏は、地方は東京より遅れていると言われるが、地方は高齢化の進行が東京より進んでいるだけで、東京の30年後を佐渡が先取りをして



学校蔵についての本を出した尾畑留美子さん(佐渡市)

ではない地方へのVターンを勧めた。留美子さんは都内の大学を卒業後、映画会社に勤めた。故郷の佐渡市にUターンし、5代目蔵元になった。本ではこれまでの経緯やその時の気持ちもつづっている。6月に出版の話があり、8月、3人にインタビューしてまとめた。留美子さんは「多忙多彩な3人だったので、インタビューが出来ただけでも、大変なことでした。おこがましいが、3人は似たことを話しています。地方の現実と将来像を希望を持って語っています」と話す。

出版後、都内のイベントで、本を読んでくれた女性が「地方に行く勇気をもらいました」と言ってくれたという。「地方賛歌でも地方移住の勧めでもありません。どちらかと言うと、地方通いの勧めかな。地方で生活する人の背中を押すことにでもなればよい」

B6判。税抜き1600円。

(原裕司)